

# 連携

## 第52号

### 病院の理念

わたしたちは、患者さまを第一に考え、いのちを大切にす最善の医療を行い、地域に貢献します

### 基本方針

わたしたちは、患者さまのことを考え、いのちを大切にします

1. 市民から信頼される、安全な医療を行います
2. 良質な医療を行うために、つねに新しい知識と技術を身につけるように努めます
3. 地域のニーズに合った医療を提供することで、地域に貢献できる病院をめざします
4. 地域の医療の中心として、ほかの医療機関との連携に努めます

## 栗原中央病院

## 災害医療派遣チーム DMAT

### 平成26年度 東北ブロック DMAT 参集訓練

栗原中央病院DMAT隊長 名久井 雅樹

はじめまして、栗原中央病院 DMAT でございます。名久井医師、澤邊看護師、総務課森係長、医事課伊藤主査、薬剤科佐々布薬剤師5名をメンバーとし平成24年度に隊員資格を習得、結成いたしました。(平成26年10月に二階堂看護師が加わりました。)皆様ご存知のようにDMATとは災害時早期の救急医療を担当し「防ぎ得る災害死」を一人でも減らすために組織された医療チームであり、資格取得後も定期的な訓練が義務付けられています。

平成26年10月4日(土)、青森県において東北ブロックDMAT参集訓練がおこなわれました。前日の10月3日午後9時頃に青森市直下型の最大震度7の地震が発生したとの想定で、7県53病院のDMAT約60チームと自衛隊や消防、県の担当者ら計約800人が参加で青森地域と八戸地域に別れて参集となり、我々は八戸市民病院に病院支援



のために向かいました。実際の災害時と同様の資機材、装備を持参し10月4日の午前8時に到着しました。八戸市民病院には既

にDMAT本部が立ち上がっており伊藤、佐々布の2名は本部付の業務調整員として関係各所から届く情報をEMISという災害時の情報管理システムに入力、発信する業務を行いました。残りの3名は本部からの指令で、トリアージ、ヘリコプター搬送支援、地域内患者搬送、重症外傷の初期治療といったミッションを行いました。訓練は程よい緊張感のもと進行し夕方には全員で訓練を振り返り終了、撤収となりました。



DMATの出動を要するような災害は無いに越したことはありませんが、最近だけで我々は岩手宮城内陸地震や東日本大震災といった大きな災害を経験しております。ひとりでも多くの命を救うために精進していく所存でございますので今後とも皆様方のご指導をよろしくお願いいたします。



## 第2回糖尿病患者友の会イベント パークゴルフ&さくらの湯へ行こう

平成26年10月11日(土)に第2回、糖尿病療養チーム糖尿病患者友の会のメンバー患者様とご家族様、スタッフの合計19名で、加護坊温泉さくらの湯へ行きました。

行き帰りのバスの中では、伊藤管理栄養士から炭水化物を多く含む食品のクイズや血糖コントロールの食べ方、太田理学療法士から、筋力トレーニングと有酸素運動、ストレッチングお話、糖尿病療養指導士の蘇武看護師、鈴木看護師からクイズを出題され、勉強しながら向かいました。



到着後、血糖チェックを「到着時、昼食前、食後2時間」の3回行い、患者様だけではなく、家族の方にも血糖チェックを体験していただきました。

さて、今回の運動はパークゴルフです。準備体操を行い、患者様、家族様と職員がチームを作り、ゲームスタートです。初体験という方が多い中、もしかしたら、こっそり練習してきたのではないかとと思うほど上手な患者様もいらっやって、表彰された時の笑顔がとても印象的でした。また、運動後の血糖測定では、血糖が上がることを皆で確認しました。

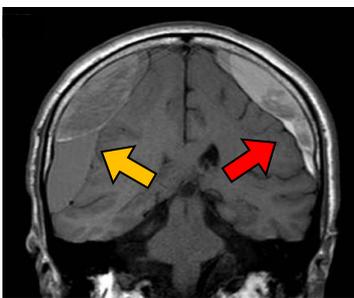


さて、お待ちかねのお昼ご飯は、さくらコース。患者様用に、600キロカロリーの食事を用意してもらいました。



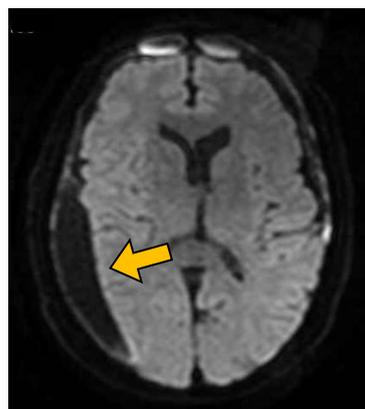
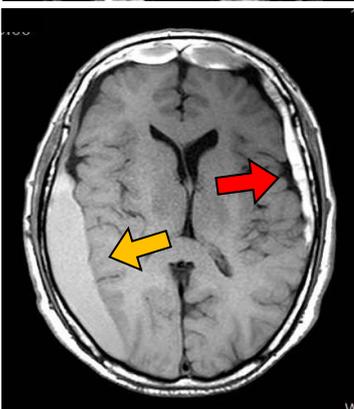
昼食後は、温泉に入っのんびりしながら、患者様同士で自分の血糖記録を見せ合ったり、体験談を語り合ったり、また小泉医師に普段なかなか聞けない疑問を質問したりなど交流を深めました。普段は患者様と医療者ですが、白衣をぬいで一緒に身体を動かし、楽しい時間を過ごすことができました。

## シリーズ 見える！診える！！栗中のMRI - その5 -



### 慢性硬膜下血腫

CTでも評価は可能であるが、MRIでは少量の硬膜下血腫も感度よく検出することができる。また、MRIでは多断面において血腫の状態が詳細に評価することができる。



より詳しく評価できる栗原中央病院のMRIです。どうぞお申込みください。





## 認知症サポーター養成講座 開催

平成 26 年 9 月 17 日(水)、栗原市築館・志波姫地域包括支援センターの職員を講師に迎え、職員を対象とした認知症サポーター養成講座を開催しました。

栗原市における高齢化率、「認知症」とはどういった症状なのか、家族または地域で「認知症の人」を支える方法をわかりやすく説明していただきました。

何か特別なことをするわけではなく、まずは認知症を正しく理解することが大切だと学びました。職員が認知症について関心を高め、正しく理解することで、より良いサービスの提供に結びつけていけるよう、これからも研修を続けていきたいと思えます。



## 第 7 回 連携のつどい “よらいん”

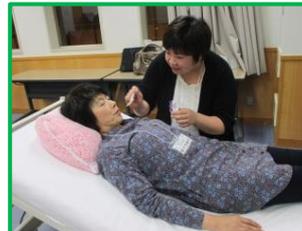
### 『食べることは生きること-摂食介助の基礎-』

講師：栗原中央病院 リハビリテーション科 言語聴覚士 千葉 直史

今回で7回目を迎えた連携のつどい“よらいん”は、「食べることは生きること-摂食介助の基礎-」をテーマに、当院リハビリテーション科 千葉直史言語聴覚士の講話と実演をまじえながら開催いたしました。

97名の参加をいただき、食べる（見る→噛む→送り込む）為には、体はどう動いているのかについて図や映像を使用して説明していただきました。実際に参加者の皆様にベッドや車椅子に乗っていただき、安全な摂食介助の方法についても講話いただきました。

参加者の皆様からは「介助時の注意点や嚥下の仕組みが良く分かり、現場に戻りきちんといかしていきたいと思います。」との声をたくさんいただきました。



## 学会・研修会・論文発表

☆専門のお医者さんが語る Q&A 脾臓の病気 改訂新版二刷 保健同人社 2014.8.20

・・・小泉 勝

☆第 47 回 日本整形外科学会 骨・軟部腫瘍学術集会 2014.7.17-18 一大阪府一

『Desmoplastic fibroma との鑑別が困難であった骨肉腫の 1 例』

・・・大泉 樹<sup>1,2</sup>, 保坂正美<sup>2</sup>, 綿貫宗則<sup>2</sup>, 鈴木堅太郎<sup>2</sup>, 岸本光司<sup>2</sup>, 永元英明<sup>2</sup>, 塩田有規<sup>2</sup>, 井樋栄二<sup>2</sup>, 渡辺みか<sup>3</sup>, 常陸 真<sup>4</sup>, 羽鳥正仁<sup>5</sup>, 土肥 修<sup>5</sup>

1 栗原市立栗原中央病院, 2 東北大学整形, 3 東北大学釜地, 4 東北大学放射線診断, 5 東北公済病院整形

☆一般社団法人日本超音波医学会第 48 回東北地方会学術集会 2014.9.21 一山形市一

『エラストグラフィによる治療後 HCC の造影超音波断面決定』

・・・千葉崇宏





# 診療状況報告



## ◎内視鏡検査等状況

(単位：人)

	上部消化管				下部消化管		ERCP 関連	合計
	診断的 内視鏡	止血術	粘膜切除 粘膜下層 剥離術	胃瘻造設術 食道拡張術 異物除去他	診断的 内視鏡	治療内視鏡 ポリペクトミー 他		
4月	159	10	2	8	49	16	19	263
5月	194	7	3	2	57	13	10	286
6月	207	20	5	2	113	14	8	369
7月	180	8	7	10	106	26	7	344
8月	157	18	3	5	87	29	7	306
9月	173	17	2	3	99	21	4	319

## ◎手術実施状況

(単位：人)

区 分	全身麻酔				腰椎麻酔				局所麻酔						合計
	外	皮	整	計	外	皮	整	計	外	眼	皮	内	整	計	
4月	17	0	6	23	1	0	7	8	1	20	1	0	5	27	58
5月	22	0	9	31	2	0	7	9	1	25	2	0	5	33	73
6月	25	1	14	40	2	0	8	10	1	24	1	0	5	31	81
7月	39	2	8	49	1	0	7	8	4	24	2	0	7	37	94
8月	22	1	12	35	2	0	4	6	4	21	3	0	3	31	72
9月	27	1	6	34	1	0	7	8	4	19	1	0	3	27	69

## ◎救急医療状況( )内及び時間内患者数は救急車搬入数

(単位：人)

区 分	外 来		入 院		時間外計	時間内 計	救急車 搬入計
	時間外	時間内	時間外	時間内			
4月	238 (66)	8	67 (41)	19	305 (107)	27	134
5月	287 (78)	20	62 (41)	24	349 (119)	44	163
6月	244 (59)	15	61 (32)	32	305 (91)	47	138
7月	279 (66)	23	61 (37)	28	340 (103)	51	154
8月	298 (67)	25	61 (34)	28	359 (101)	53	154
9月	318 (82)	14	86 (39)	30	404 (121)	44	165

## がんサロン「ほっとくりはら」のご案内

「ほっとくりはら」は、がん療養中の方やご家族、がん体験者が集まり、お互いの体験や気持ちを語り合い支え合う場所です。一人で悩まずに話してみませんか。ご都合のつく日で構いません。お気軽にお立ち寄りください。

開催日：毎月第2火曜日

場 所：栗原中央病院

時 間：13:30~15:00

対象者：がん療養中の患者様・ご家族様・がん体験者

お茶代：100円

お申し込みは不要です



## 編集後記

全国各地で集中豪雨、竜巻の発生など異常気象による災害が多く発生しております。

本来ならあまり活躍する場がない方が嬉しいのですが…大災害発生時には当院のDMAT(災害派遣医療チーム)が多くの命を救えるよう日々訓練しております。とはいえ、まずは一人一人が自己防衛に努めていくことが大切です。

